

循環器病の患者に対する 治療と仕事の両立支援モデル事業

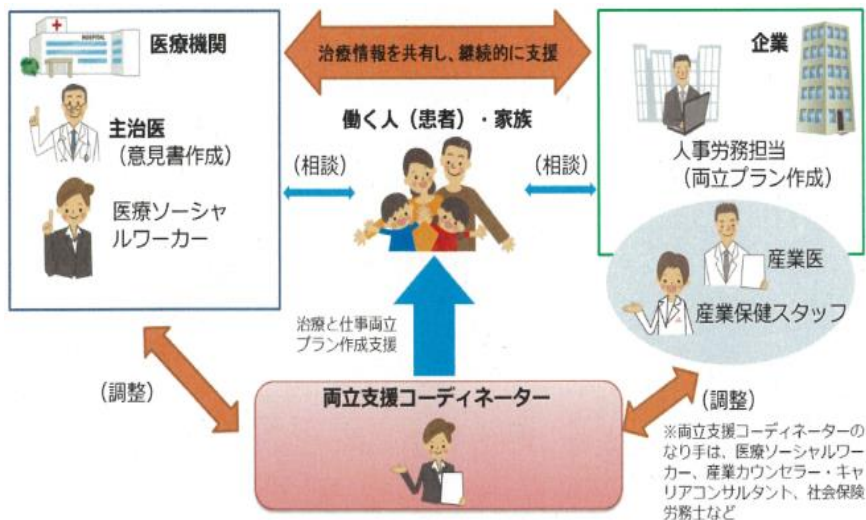
～事業成果のまとめ～

厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課

循環器病の患者に対する治療と仕事の両立支援モデル事業（R1～3年度）における取組

事業内容

循環器病の患者が安心して仕事継続や復職に臨めるよう、循環器病の医療提供を行う医療機関において、両立支援コーディネーターを配置して、各個人の状況に応じた治療と仕事が両立できるよう就労支援を行うモデル事業を実施する。



実施機関 12か所

(※) 複数年、実施した医療機関

東京労災病院(※)	東京都
東京慈恵会医科大学附属病院	東京都
東京湾岸リハビリテーション病院	千葉県
榊原記念病院	東京都
横浜労災病院	神奈川県
北里大学病院(※)	神奈川県
愛媛労災病院(※)	愛媛県
大阪労災病院(※)	大阪府
国立循環器病研究センター	大阪府
中国労災病院	広島県
産業医科大学病院(※)	福岡県
熊本労災病院	熊本県

本事業で作成された支援ツール

脳卒中の治療と仕事の両立お役立ちツール

<ノートの構成>

- ・脳卒中を理解しましょう
- ・脳卒中と診断されて取り組みたいこと（急性期）
- ・病状が安定して取り組みたいこと（回復期）
- ・自宅退院前に取り組みたいこと
- ・退院後、仕事に戻る前の準備期間中に取り組みたいこと
- ・仕事に復帰してから気をつけること
- ・新たな働き方を模索するあなたへ

厚生労働省「令和元年度がん患者及び脳卒中患者の仕事と治療の両立支援モデル事業」及び「令和2年度厚生労働科学研究費補助金研究」の一環として作成

編集・執筆者代表：佐伯覚 先生

心疾患の治療と仕事の両立お役立ちツール

<ノートの構成>

- ・心疾患について理解しましょう
- ・心疾患と診断されて取り組みたいこと（急性期）
- ・自宅退院前に取り組みたいこと
- ・退院後、仕事に戻る前の準備期間中に取り組みたいこと
- ・仕事に復帰してから気をつけること
- ・新たな働き方を模索するあなたへ

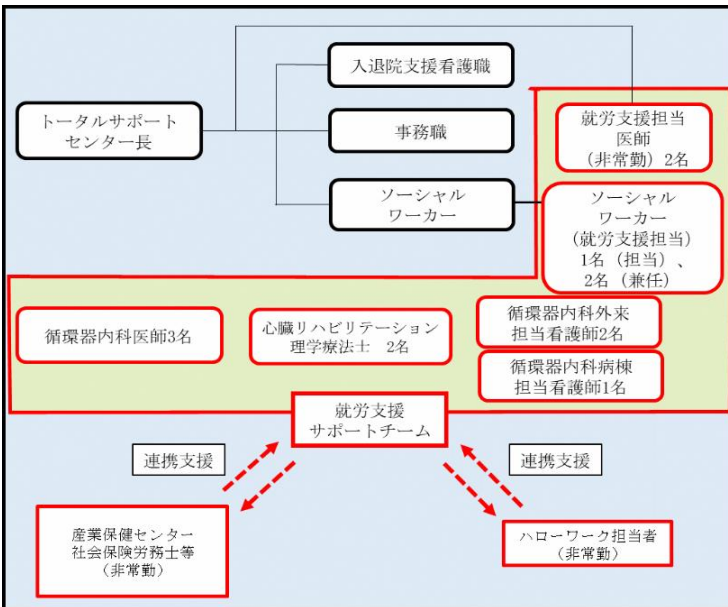
厚生労働省「令和元年度がん患者及び脳卒中患者の仕事と治療の両立支援モデル事業」、「令和2年度循環器病の患者に対する治療と仕事の両立支援モデル事業」及び「令和2年度厚生労働科学研究費補助金研究」の一環として作成

編集・執筆者代表：荻ノ沢泰司 先生2

循環器病の患者に対する治療と仕事の両立支援モデル事業 取組事例紹介（心疾患：北里大学病院）

- 2020年度は循環器内科医師、入院・外来循環器担当看護師、就労支援医師、ソーシャルワーカーによる心疾患両立支援チームを立ち上げ、就労支援外来と連携しながら就労支援セミナーを開催した。2021年度は、心臓リハビリ担当医師や理学療法士を加え、1回/月の支援会議を開催した。
- スクリーニングは、入院・外来看護師が「就労支援ポスター」を利用して、患者への声掛けやヒヤリングを行い、ソーシャルワーク面接につないだ。
- ソーシャルワーカーは、全対象患者と面接をし、それぞれのニーズや課題を把握し、必要に応じて、就労支援外来、産業保健総合支援センター社会保険労務士、ハローワーク担当者と連携した。対象患者は2020年度は15人、2021年度は35人であった。疾患特性別では成人先天性心疾患が多かった。
- 2021年度は心臓リハビリ担当医師や理学療法士が介入し、運動耐容能や身体活動量等の評価を行い、それに基づいた指導を行った。
- 2021年度は埋め込み型補助人工心臓を使用している患者が就労ができた事例紹介を含め、オリイ研究所の方を招いて職員向け講演会を開催した。

2021年度心疾患両立支援チーム



就労支援ポスター

仕事のことでお悩みの方へ

病気がけがを抱えて生じた様々な不安、経済的な心配、就労に関する不安、社会保険や社会福祉制度の活用方法などのお悩みごとについて、**ソーシャルワーカー**が相談をお受けします。
相談内容やご希望に応じて、以下の外来/出張相談をご案内します。

- 専門医による就労継続に関する医学的アドバイス** → **就労支援外来**
(例) 予約制(保険診療) 毎月第2、第4火曜日 13:00～、14:00～、15:00～
相談時間 30分程度
※当院循環器科のみ有
※院内待合には診察待合が別途発生します
- 就労継続または退職のための相談** → **社会保険労務士**
(例) 治療でたびたび休みが心配 仕事を休みすぎてお金がかかり 臨時対応 事前申し込み制 無料相談 相談時間 50分程度
- 就職、転職、再就職の相談** → **ハローワーク相談員**
(例) 今の仕事を続けるのは難しい 病気になるって仕事を辞めてしまった 転職を考えている 再就職したい 予約制 無料相談 当院での相談は初回のみ 毎月 第2火曜日、第4木曜日 第5水曜日 13:00～、14:00～、15:00～
相談時間 50分程度

相談をご希望の方は、下記にお電話いただくか、直接お越しください
トータルサポートセンター ソーシャルワーカー
TEL 042-778-8438(直通)
受付時間 月～金 9:30～17:00 土 9:30～12:00(第2、第4の土曜日はお休みです)

疾患特性別支援

疾患特性	全対象患者数		(内) 就労支援外来		(内) 社会保険労務士		(内) ハローワーク	
	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021
成人先天性心疾患	7	14	2	2	2	1	3	3
虚血性心疾患	0	8		2				2
不整脈に対してデバイス挿入	3	2		1				
心不全	1	4		1				1
大動脈疾患	3	4		2			2	
その他	1	3		1				
計	15	35	4	7	2	1	5	6

【成果】

- ①ソーシャルワーカーが就労支援の相談窓口を担うことで、チーム支援のマネジメントが可能。
- ②スクリーニングは、医師や看護師からの働きかけが重要であり、潜在的なニーズを発掘に有効。
- ③心臓リハビリ担当医師や理学療法士との連携により、専門的知見に加え運動耐容能や筋力、身体活動量を評価でき、患者自身が視覚的に自身の状態像を把握ができ、運動に対する意識が向上。
- ④講演会を通し、職員が循環器病（心疾患）患者の就労支援の重要性、可能性を再認識。

【課題】

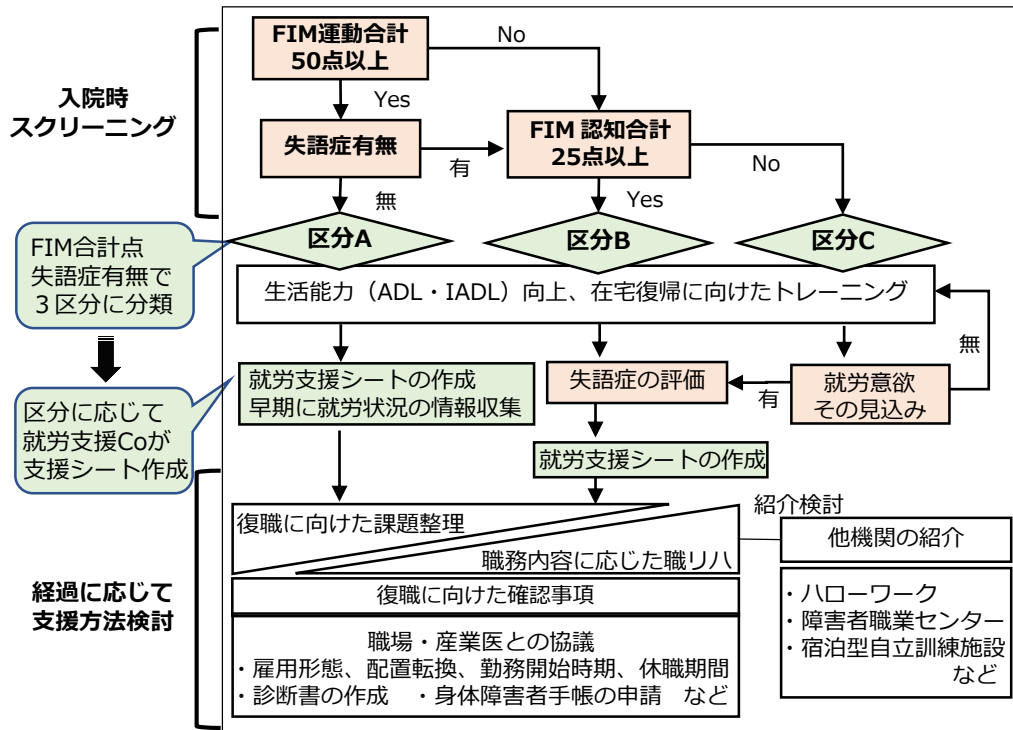
- ①就労継続困難な職業として重労働（荷上げ、輸送）や極端な冷所・酷暑での作業が多く、就労継続が難しく、かつ事務作業の経験が乏しい患者が多いため、新たな就労機会の提供が困難。
- ②両立支援の院内職員への普及啓発が不十分。

取組事例紹介（脳卒中：東京湾岸リハビリテーション病院）

① 就労支援対象者スクリーニングと介入フロー作成

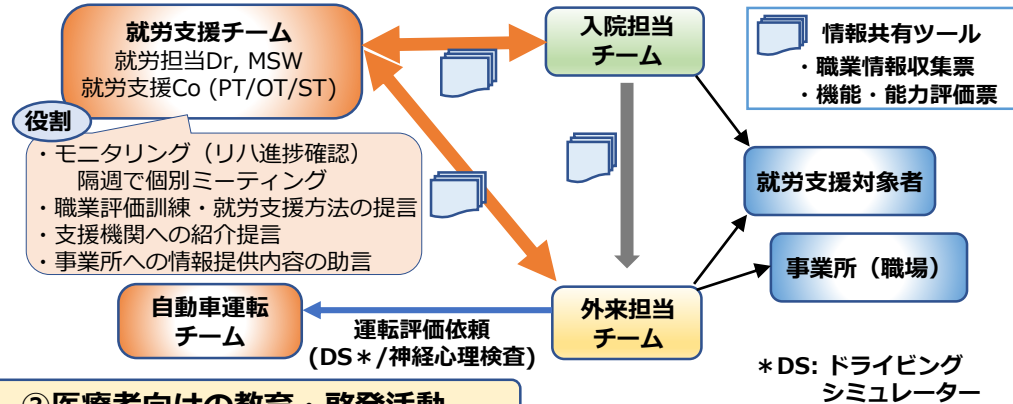
アンケート調査に基づく就労・非就労関連因子の分析研究

発症前就労者における退院後就労・非就労に関連する因子を入院時データより解析し、就労支援対象者の入院時スクリーニングとフロー作成に活用した。



② 就労支援チーム（就労支援Co配置） / 自動車運転チーム立ち上げ 情報共有ツールの活用

各病棟・外来にリハ専門職による就労支援コーディネーター(Co)を配置し、就労支援担当Dr/MSW、Coで構成される就労支援チームが、臨床担当チームの就労支援をサポートする仕組みを導入。職業情報収集票・機能能力評価票など情報共有ツールを導入し、外来までのシームレスな情報伝達と、支援チームとの情報共有に活用した。自動車運転再開希望者に、運転チームによる運転能力評価を行う仕組み作りも行った。



③ 医療者向けの教育・啓発活動

- 「就労支援ガイド」「高次脳機能障害職リハガイド」などの手引き作成
- 職員向け就労支援研修会実施

各支援機関や就労支援に利用可能な制度の概要、自動車運転などの知識を盛り込んだ「就労支援ガイド」、復職で問題となりやすい「高次脳機能障害患者の職リハガイド」などの手引きを作成した。また事例紹介などを通じた職員向け研修会を開催し、病院全体における就労支援の意識づけや支援の質向上をはかった。

【成果】

- ① 入院時に就労可能性をスクリーニングするフローの導入により、臨床チーム・支援チームが共通認識をもって支援候補者を把握できるようになった。
- ② 就労支援チームによる定期的な支援対象者のモニタリングと臨床チームへの助言、情報共有ツールの導入により、復職に向けた課題の整理・適切なタイミングでの職業能力評価訓練・シームレスな外来への情報伝達が可能となり、担当チームの就労支援の質向上が得られた。
- ③ 高次脳機能障害患者で難しいケースを、障害者職業センターなどの支援施設へ適切なタイミングで紹介検討する事例が増加した。
- ④ 医療者向けガイドや教育研修により、病院全体の就労支援への意識向上が得られ、ワークサンプル幕張版 (MWS) などを活用した職業評価訓練・DSを活用した運転評価を積極的に行う風土形成につながった。

【課題】

入院早期の事業所からの情報収集のあり方検討や、患者家族のニーズへのより具体的な対応方法の検討、患者向けのわかりやすいガイド作成などが今後の課題である。また、高次脳機能障害者への対応も可能な移行支援事業所などの情報収集、紹介事例の蓄積などもさらなる課題である。